



中学生グループ なんだか、企画のネーム決めから楽しそう!

お菓子を探せ! おかしいおかしなおかしパーティー
2月4日(土) 大殿地域交流センター

豆まきがしたい女子高生から生まれた企画。21名が参加し、隠されたカードに書かれた指示でお菓子を探し出すゲームや、難易度高めの謎解きに挑戦。夜ならではのテンションで大いに盛り上がりました。

昨年が「第2回あるかもスポーツ大会」。だから**第2回あったよスポーツ大会**
4月2日(日) 小郡ふれあいセンター体育館

バレーボールにバドミントン、バスケットボール、そして2種類のおにごっこ。なんでもありのスポーツ大会。途中、大人も飛び入り本気モード。新中学1年生も参加して、嬉しい楽しい1日でした。



子どものやってみたい!を育てるところ いちにちプレーパーク!

月に一回、山口市各地で開催している「いちにちプレーパーク」。みんなは行ったかな? 自分で何をしようか決めて、自分でどうしようか考えて…。これが、楽しいの秘訣!いつの間にか工夫のスパイラル。もちろん「今日はボーッとしよう」も一つです。



赤田神社
紅葉の季節は、イチョウの黄色が鮮やか。落ち葉の季節は、葉っぱがおもちゃ。焚き火の火にはみんなが集まってきました。

こどもステーション山口は子どもたちが文化芸術に親しんで、心ゆたかな子ども時代を過ごせることを願って活動しています。プロの舞台芸術に出会う舞台鑑賞会のほかに、キャンプやこどもまつりなど、たくさんの仲間といっしょに活動できる場をサポート。大人にも、「子どもと共に育ちあう」学習の機会を提供しています。また各地区ブロックでは、会員が地域のつながりを大切にしながら独自の楽しい活動を行っています。

こどもステーション山口 WEBサイト
<https://kodomo-st.org>

こどもステーション山口の最新情報、さまざまな活動のレポートを紹介しています。

子どもたちの体験と活躍がすてき!



Day Camp 3月26日(日) 千坊川砂防公園

小4から高2まで20名と大人5名が参加したデイキャンプ。小雨が心配でしたが、子どもたちは元気そのもの。簡単なゲームで打ち解けたら、さっそくカレー班とシチュー班に分かれ、具材獲得ゲームのケイドロ開始! ケイサツから逃げながら隠された具材カードを集めます。薪割や火起こし、飯ごう炊飯といった屋外調理が初めての子どもも多く、班で相談しながら、助け合いました。外でみんなで食べると一段とおいしいね。



亀山公園ふれあい広場
広い公園で、ダンボールの基地をつくったり、ガチャ玉転がしをしたり、広げ放題遊んでいます。



今市公園
街の中にある公園では、近隣の病院職員の方や幼稚園児との関わりも見られます。

プレーパークについて、より知ってもらうために、新しいリーフレットができました! 会場などで配布中。

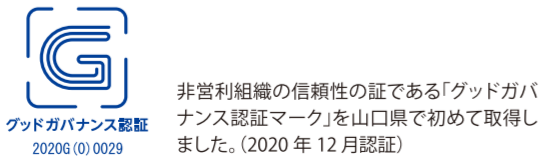
入会お待ちしております...…舞台鑑賞会の入場料が無料です!

正会員 月会費2,500円(子どもの登録OK)
子どもの登録料(一人500円/年)

準会員 月会費1,300円(大人だけの参加)

賛助会員 個人会費:一口 5,000円/年
団体会費:一口10,000円/年

※寄付も随時、募っています。
※年間3,000円以上ご寄付いただいた方は確定申告により、税額控除が受けられます。



《「支え人。」としてのご支援をいただいている企業》

■(株)メルシー ■リンドヴルム ■POLA Sweet

【こどもステーション山口の4月の会員】
正会員105人 準会員60人 子ども登録数197人 計362人

LineUp

2023 舞台鑑賞会の予定
対象年齢 乳幼児・低学年・高学年
変更になることがあります。ご了承ください。

給食番長 《劇団仲間》 5月28日(日) 山口市民会館 小ホール	トリスタンとイゾルデ 《マリリンパ・カンパニー》 6月23日(金)・24日(土) C・S赤れんが
0さいからの音楽会 6月24日(土) 《マリリンパ・カンパニー》 C・S赤れんが アートスタート	ミュージカルすてきな三にんぐみ 《演劇企画オフィス・アートプラン》 7月17日(月祝)山口市民会館 小ホール
とよたかずひこ 絵本ライブ 8月5日(土) アートスタート C・S赤れんが	きんぎょがにげた 《人形劇団ブーク》 8月27日(日) アートスタート 山口県旧県会議事堂
みんな de らくご 《スタジオエッグス》 10月22日(日) 山口県教育会館ホール	2024 ミスしゃっくりの幸せな一日 《小心ズ》 3月16日(土) 山口市民会館 小ホール
The Gardener 《小心ズ》 3月17日(日) 山口市民会館 小ホール	ふしぎ駄菓子屋銭天堂 5月2日(木) 《人形劇団ひとみ座》 山口市民会館 大ホール

毎月1回 いちにちプレーパーク開催
毎月第2火曜 幼児クラブモコナ開催

赤れんがだより
クリエイティブ・スペース赤れんがはこどもステーション山口が指定管理者となっています。

8月23日(水)~9月3日(日) 山根秀信展
10月26日(木)~28日(土) 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ)
12月16日(土)チェンパロコンサート

YA!

【こどもステーション山口 広報紙】
2023年5月1日 発行
発行・認定NPO法人こどもステーション山口
ご意見・ご感想お待ちしております。
〒753-0047 山口市道場門前2-4-20国近ビル2F
TEL・FAX 083-925-1486 ☎co26station@yahoo.co.jp
OPEN 月~金10:00~17:00

編集後記

■気の乗らない仕事とか掃除とか奉仕活動とか、徳を積んでいると思えばこなせる。来世は何になってもいいのだけれど、今世が楽しかったらいいな。(ナガタ)

■久しぶりに帰省した娘とカレー屋へ、近況を溢れるように話してくれる。友達とのランチ会のように。それともやっぱり親だから?どちらにしても、親への反発がなくなったのかな。日常に戻ると、中学息子のまだまだ繊細な関係は続く。どちらも成長したな。(クラタ)

■それぞれが新しいステージに進んだわが家。結果、小4女子とふたりで過ごす時間が増えた。ずっと勝手にしゃべって。聞いてるフリしてると、だんだん眠たくなる。子どもと向き合うって難しいね。(カキタ)

さまざまな体験・たくさんのおなかま…そんな出会いの中で子どもたちがいきいきと活動しているようすなどをお伝えします

あそぶ・かんじる・そだつ



ご注文はなんですか? いちにちプレーパーク 調理に忙しいボク

2023年5月1日発行(年2回)
発行/認定 NPO 法人こどもステーション山口

特集 こども家庭庁発足で何が変わる?

たちどまってミルクがえてミルク

新しい言葉に耳をかす、ということ 1p

子どもの権利を守る「こども基本法」2p

子どもたちの体験と活躍がすてき! 3p-4p
る・リ・フリー、中学生グループ ほか



kajjiの日用品楽器コンサート「食器は歌う」 客席全員空き缶楽器を持って、わたしたちも音楽の一部。

特集 こども家庭庁発足で何が変わる?

新しい言葉に耳をかす、ということ。

他人の意見を素直にうけいれること、できてますか?
自分の考えだけを頼りに、「これが正しいこと」と、決めてしまっていないでしょうか?



ベリだから、ラクだから、みんながそうしてるから…そんな今を立ちどまって、いっしょに考えてみませんか?

おそらくだれでも、その人なりの理想をもって生きています。生きる指針として、自分を見失わないように。いろんな人がいて、いろんな考えがある。どうがんばっても理解できない、と思ってしまうものもある。でも、それを否定する権利はだれにもない。

たとえば親が、小さい子どもにゲームをしてほしくない、と考える。専門家の話を聞いたり、科学的な根拠をもとに、小さいころにゲームをしすぎるのはよくない、という考えをもっている。だけど、ゲームをしたい子どもにしたらそれはいい迷惑で、そんな理屈よりも、楽しいからしたい、となる。それもひとつの意見とすると、頭ごなしにすべてをとりあげるわけにもいかない。そこで、妥協点を見つけて、折り合いをつける。理想と現実を調整してお互いの理解と努力で解決していく。ちいさいことであろうと、たとえば、そんなこと。

自分をもつことは大事。でもそれは、意見を押し通すことではない。自分と違う考えをばつさり否定するのではなく、そういう考えもあるねと認めること。わかったふりではなく、少しでもわかりたいと歩み寄ること。そこからはじめて、なにかが動く。子どもとおとなの関係性も、おとなとおとなの関係性も、同じことなんじゃないかな。

わたしはこう思う、あなたはどうか?
そこからまた、新しい世界がひろがる。

世の中が驚くほどのスピードで変わっていく現代社会で、変わらないままでいることは果たして重要なことなのだろうか、と思う。変化を柔軟に受け入れて、同時に自分も少しずつ進化していかなければ、それはただ時代にとりのこされているだけになる。変わりすぎる世の中で変わらずにいるということは、

実は変わっていないわけではなくて、時代にあった自分でいられるための変化を続けていること、なのかもしれない。昔はよかったと、いつの時代の人も過去を振り返ってきただろう。でも、そこで立ち止まっているだけではだめなのだ。

子どもの意見もひとつの意見としてしっかり受け止めようという、子どもの権利を認める法律「こども基本法」が施行された。やっと認められる子どもの権利を考えると、いちゃばん努力するべきなのは、おとなの側。これまでの当たり前を捨て去り、変化を受け入れる覚悟をもたなくちゃ。だめだからだめ、なんて叱り方、まちがってもないようにしなきゃ、ね。頭でっかちになりがちな「こうあるべき」を、捨て去るときがきている。あなたも、わたしも。(カキタ)

子どもの権利を守る「こども基本法」

「子どもの権利条約」が1989年に国連で採択され、1994年に日本が批准してから約30年。当時の政府は「児童福祉法」や「母子保健法」などによって“すでに子どもは守られている”として、新たな法整備はしませんでした。しかし、“子どもの「権利」が守られている”とはとても言い難い状況でした。この春、「こども基本法」が施行されたことで、「子どもの権利」が法律によって明確に守られることとなります。(2022年6月15日成立、2023年4月1日施行)

子どもの意見に耳を傾ける

「こども基本法」は子どもが意見表明する権利を理念の一つに掲げています。これからは、おとなが「子どものため」と思ってとった行動や選択に、子どもの意見や意思が入っているかという点が重要となります。身近なところでは、学校の校則や家庭でのスマホのルール、習い事や進路の決定などにも関わってきます。

子どもの意見を対等に聞こうとする姿勢は大切です。自分の意見が頭ごなしに否定されたり、雑に扱われたりすれば、子どもは失望して意見を言うことをあきらめてしまうこともあるでしょう。意見を言える環境があれば、「自分は大切にされている」と感じられるかもしれません。

とはいえ、物事の判断基準は一人ひとり異なります。「権利」について考えるとき、「しつけ」や「わがまま」との線引きがむずかしいと感じたら、意見を言うことと、その意見が通るかどうかはまた別の問題だと心に留めて。お互いの言い分を納得いくまで話し合

える関係を築きたいものです。実際にわが子とそう向き合っているかどうかは、悩ましいところですが、そんな第一歩を踏み出したいですね。



キーワードは「子どもの最善の利益」

「子どもの権利条約」にも「こども基本法」にも登場する「子どもの最善の利益」という言葉。子どもにとって一番いいことをしよう、考えようというシンプルな考え方ですが、子どもの権利を最も明確に表している言葉です。

「こども基本法」は、子どもに関するすべての施策において守られるべき法律です。子どもたちがそれぞれに、自分らしく、自分を大切に暮らしていけるように、子どももおとなも「こども基本法」を理解していくことから始まります。(ナガタ)

こども基本法の理念

すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと

すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること

年齢や発達 の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できること

すべてのこどもは年齢や発達 の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること

子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること

家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること



こども政策の司令塔「こども家庭庁」

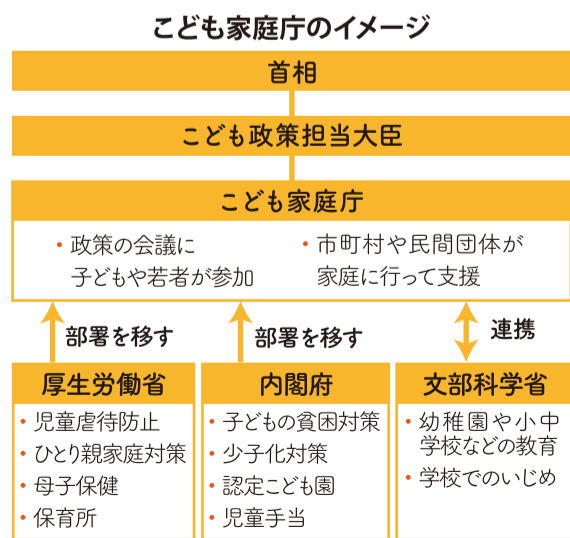
2023年4月1日、「こども家庭庁」が発足しました。子ども一人ひとりの権利を守った子どもの目線での政策で、これまで目の届かなかった部分にも支援の手をのばすべく動き出します。

児童虐待やヤングケアラー、子どもの貧困、いじめ、教育格差など子どもをめぐる問題は、福祉・教育・医療など多岐の分野にわたるため、それぞれ窓口が異なり、解決までに時間がかかりました。この度の「こども家庭庁」の発足により受け皿が一本化されることで、スムーズな対応が期待されます。

制度が複雑だと支援以前に、行政に声が届かない人がいることも課題でした。助けを必要とするとき、わかりやすい福祉がそばにあることで、子どもをめぐる問題はもっと解決しやすくなります。山口市では2024年度中に市保健センター内(糸米2丁目)に「こども家庭センター」を設置します。出産や子育て支援機関の相談窓口を集約することで気軽に相談できるように、支援の円滑化を図る予定です。

こども家庭庁の施策は5年ごとに見直されることになっています。法整備はスタート地点。今よりももっと

よい環境で子どもたちが安心して育っていけるように、「こどもまんなか社会」のこれからのを、わたしたちも注視していきたいですね。



こども家庭庁が大事にする6つのこと

1. こどもや子育てをしている人の目線に立った政策を作ること
2. すべてのこどもが心も身体も健康に育ち、幸せになること
3. だれひとり取り残さないこと
4. 政府の仕組みや組織、こどもの年齢によって、こどもや家庭への支援がとぎれないようにすること
5. こどもや家庭が自分から動かなくても、必要な支援が届くようにすること
6. こどもに関する調査・データを集め、それをしっかり政策にいかすこと

2022
11月
~
2023
4月

こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。

田楽座「楽まつり」事前ワークショップ おまつりを学び、めざせ!おまつりマスター!

11月23日(水・祝)吉敷地域交流センター

田楽座の杉ちゃんこと杉幸司朗さんを迎え、獅子舞や太鼓を通して、日本各地に伝わる伝統芸能について知識を深めました。実際に身体を動かして、舞や響きも体験。やってみるとなんと難しいこと!演者さんの技術や工夫になんとも驚きました。実際に身体で感じた伝統芸能。自分たちが住んでいる日本の文化がもっと身近になりました。



東京芸術座
12人の怒れる男たち (高学年対象)
11月20日(日)山口市民会館 大ホール

12人の陪審員による白熱の議論を芝居に。偏見や私情も入り混じる中、答えと思われたことに疑いはないのか、本当の真実は何か。

- 人間は、1人の心でみんなの心がゆれうごかされ、反対の意見になるのだなと思いました。(会員女子13才)
- 良心とは何か。行動することは何か。そう考えさせる作品でした。(一般70才代)



田楽座
楽まつり (低・高学年対象)
12月16日(金)山口市民会館 大ホール

日本各地で受け継がれてきた民俗芸能から創作されたお祭り舞台。心の奥がうごめく圧巻の一時間でした。

- 音が強くてとても楽しかった。たいこをたたきたい。(会員8才)
- 日本の祭りの良さ、楽しさ、かっこよさを存分に感じました。(会員40才代)

kajii「食器は歌う」事前ワークショップ 『オリジナル楽器』を作ろう!『おと』であそぼう!!

2月5日(日)山口市男女共同参画センター

いろんな材料を持ち寄って、思い思いのオリジナル楽器をつくりました。空き箱からはどんな音がでるかな?ヤクルトのボトルからは?どんな工夫をすればいい音になるかな?音に意識を傾けて、子どもたち新しい発見があったことでしょう。kajiiさんの楽器が楽しみになりました。



kajiiの日用品楽器コンサート
食器は歌う (低学年対象)
2月18日(土)山口県教育会館ホール

楽器とは思っていないものから、思いもよらないステキな音。演奏に、クイズやお話も織り交ぜて、子どもたち絶好調で楽しんでいました。

- 幻想的な音だったり、思いがけず繊細な音が出たり、独創的で楽しい音楽でした。(会員女性)
- たらいは楽器なんだと思いました。ぶらさげただけできれいな音が出るんだなと思いました。(男子10才)



人形劇団むすび座 トッケビ
3月12日(日) (高学年対象)
ニューメディアプラザ山口 多目的シアター

鬼のいない鬼ヶ島で繰り広げられるもう一つの桃太郎伝説。違う視点から見た時、物事の捉え方が変わってくる。あなたはどうみた?

- 今のウクライナである戦争のようだと思う。“おに”は私たちの心にあるのだと思う。(会員13才)
- ももたらうって日本のごとなのかな?本当にあったのかな?いろんなことを考えてみました。(会員)

見るやる演じる リズム リラックス 自由

一般財団法人愛山青少年活動推進財団助成事業

る・リ・フリー 2023

子どもたちによる創作舞台!

3月21日(火・祝) 山口県教育会館ホール

子どもたちはとにかく本番に強い、という事実を毎回目の当たりにする「る・リ・フリー」。いつもはプロの舞台をみる側の子どもたちが、舞台にたって表現する一日です。練習の段階から当日のいろいろまで、おとなたちはサポートにまわります。やきもきしたり、イライラしたり、当日を迎えるまでにおこるいろんなハプニング。そんないろんな思いもあいまって、感動もひとしおの楽しいステージでした。

運営にかかわった実行委員のみなさんのコメントをご紹介します。



中高生チーム
今年は、司会進行も務める余裕の(?)中高生グループからスタートしました!



南部チーム
「今回、南部として初めてる・リ・フリーに出られて、いい時間を過ごせました。練習回数は少なかったのですが、本番ではやっぱり楽しくやっている子どもたちに脱帽でした。なんでもなんとかなるな」と思える成長でした!」



大殿チーム
「毎週、学校帰りに集まりました。子どもが集まるだけで、楽しくなってやりたいことがありすぎて、練習はなかなか始まりませんでした。でも、台本ができ、練習をしている姿にびっくりに。子どものやる力に成長を感じました。」



合同チーム
「る・リ・フリーに出たい!と様々な地区から集まりましたが、あつという間に仲良しに。順応力!練習を重ねる間に、ダンスだけやりたいと言っていた子が、セリフや動きを考えて役者になり、恥ずかしがって参加をしづっていた子が、大きな声で立派に役をこなしたり。子どもたちのすごいパワーを感じまくった時間でした。」



吉敷チーム
「4才から高校生まで、15人の吉敷ブロックの子どもたちの「今」がギュッと詰まった本番では、子どもたちの無限の力を感しました。思いっきり遊び、表現できた子どもたち、それを陰ながら見守って下さった方々、みんなで勝ち取ったる・リ・フリー大賞です!」